



道路の路線位置（ルート）は どのようにして決めるのですか？

道路の路線位置（ルート）を決めるにあたっては、安全で快適なドライブができるか、経済的、技術的に優れているか、地域の土地利用や環境に配慮しているかなどについて十分検討します。

具体的に説明すると次のような手順になります。

- 道路の種類の決定：路線の指定および認定は、「道路法」に従って行われます。

この道路法による道路の種類には、「高速自動車国道」「一般国道」「都道府県道」「市町村道」の4つがあります。これらは全体的な道路網における重要性、役割によって決められます。

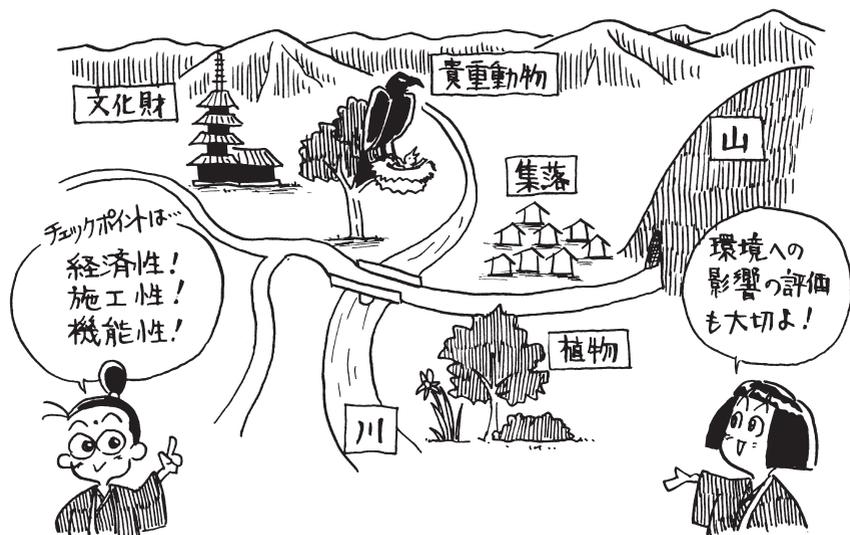
- 道路の設計条件の決定：道路の種類、予想される利用台数が決まると、「道路構造令」に基づいて、通過する地域の地形などから設計速度、幅員などを決めます。

設計速度が決まるとカーブの大きさ、勾配などの設計条件が決まります。

- コントロールポイントの抽出：地形図、都市計画図、文化財、生物分布図、植生図などの調査資料を使って、道路が通過する地域の重要物や貴重物の存在する場所、地域の環境が著しく悪くなる場所、高い工事費が必要となる場所などを抽出します。

このような場所をコントロールポイントといいます。コントロールポイントには、以下のようなものが考えられます。

集落、風致地区、神社・仏閣、墓地など
学校、病院、役所などの公共施設



貴重動植物の生息・生育区域

重要な文化財、国立公園などの特別指定区域

高い山、深い谷、広い川、地盤の悪い所など

- ルートの選定：まず、A地点からB地点を結ぶ場合、地形図上よりコントロールポイントを確認し、道路構造令による曲線、勾配などの基準値をチェックしながらルートを決めていきます。
- 各ルートの比較：考えられる数本のルートを地形図上に描き、ルートを比較します。
- 最適路線の決定：最適路線は、各路線の経済性（事業費）と投資効果（時間短縮やガソリン代の節約、交通事故の減少、環境への影響軽減などの効果）、施工性（工事の難易度）、機能性（平面、縦断線形などの安全性や利便性）、環境影響（生活環境、地形・地質、動植物などの自然環境への影響）などについて総合的に評価したうえで決定されます。